（別紙様式４―１）　　（県立高等学校・中学校用）

玉名高等学校全日制　平成２９年度学校評価計画表

１ 学校教育目標

（ア）「平成２９年度県立中学校・高等学校における教育指導の重点」を踏まえ、本校の三校訓「至誠・剛健・進取」の具現化に努め、徳・体・知の調和がとれた全人教育をめざす。

（イ）これまで積み上げてきた本校の教育方針に基づき教職員が一体となって、家庭や地域との連携のもと活力ある学校づくりをめざす。

２ 本年度の重点目標

本年度教育スローガン

「夢実現・可能性への挑戦　～新たな歴史を刻む～」

① 玉高生としての基本的な生活習慣の確立
② 教師の授業力向上及び個に応じた相談対応、学習指導及び進路指導
③ 校務全般の効率化等の学校改革の推進
④ 特別活動（生徒会・部活動等）を生かし、自主性や創造性、奉仕の精神などの育成
⑤ 地域・保護者との連携
⑥ 読書活動の推進等、言語環境の整備

＜評価＞　Ａ：よくできている　Ｂ：大体できている　Ｃ：ややできていない　Ｄ：できていない

３ 自己評価総括表

評価項目 大項目	評価項目 小項目	評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校経営	学校の組織力の向上	学校組織の円滑な運営と活性化	課題・情報の共有化 協働意識の高揚 コミュニケーションの充実 学年部とそれを支える他の分掌や教科の連携・協力	各分掌･教科の連携 管理職への早急な報告・連絡・相談体制の確立 管理職から職員への目配り・気配り・声かけ 運営委員会の活性化	B	運営委員で意見交換し、他の分掌との横の連携を図りながら、より良い提案を行い、全職員に対しても早めの周知を徹底しているが、教職員による学校評価アンケートの肯定感は、昨年度よりも減少し、80%を切っている。 本校は、高校全日制・定時制に附属中学校があり、行事等が錯綜することがある。職員間での情報共有、意思の疎通及び「報連相」をさらに徹底することにより、組織としての運営が円滑に行われていくものと考える。
		職員研修の充実	人権教育で３回、進路指導で３年３回、１・２年は２回、ICT活用で１回実施する。	人権教育部、進路指導部（教務部とも連携）、情報管理部で立案し、全職員で実施する。	A	各部における研修の回数は目標を達成したものの、職員の要望に沿う研修内容や時期的・時間的な改善は継続して図っていきたい。
	安全な学校づくりの推進	安全点検表による点検と改善	各学期に１回、教室や施設等の安全点検実施。点検率100%を目指す。	保健環境部が立案し、全職員で取り組む。	B	２学期は点検率約９５%。全職員で取り組み、更に校内の安全を高めたい。
		緊急事態対応の徹底	避難経路の確認と避難訓練の実施。	総務部が立案し、学校全体で取り組む。	A	避難経路は４月当初に職員・生徒に周知。避難訓練は、学校運営協議会でも内容を検

						討していただき、実施した。
	学校改革	生徒と向き合う時間の確保	校務の精選等により、職員の時間外勤務時間を縮減する。	衛生委員会を、原則として月１回開催することとし、職員の時間外勤務の状況等の情報共有を行い、運営委員会等で校務改善等を検討する。	C	本年度から、衛生委員会を月１回開催し、職員の時間外勤務の状況等の情報共有を図ることはできた。しかしながら、有効な改善策を打ち出すまではできず、職員の肯定感も半数を超えることができなかった。
		授業改善への取組の充実	すべての職員が、次期学習指導要領（主体的・対話的で深い学び、他）を意識した授業改善に取り組む。	互観授業週間を活用する。職員は授業改善に取り組むとともに、相互に参観し、情報交換を行う。 年２回、生徒による授業評価を実施する。	C	互観授業週間を活用した授業参観はできたが、授業改善への取組が充実していると思っている職員は半数に満たない。 業務改善に対する意識の向上とともに業務改善による時間の確保が必要である。 生徒による授業評価は、本年度１回実施した。
学力向上	確かな学力の養成と授業の充実	教科シラバスの作成	評価の観点などを盛り込んだ、次年度に繋がる質の高いものを作成する。	教務部を中心に教科全体で取り組む。	A	統一した書式の使用により、生徒や職員に、年間指導計画を分かりやすく提示することができた。
		互観授業週間の設置	２学期に３週間、全教科で実施する。	教務部が各教科と連携しながら学校全体で取り組む。	A	概ね好評であったが、実施時期や回数、中学校との連携は検討の余地がある。
		公開授業の実施	各学期に１回、土曜日に実施（７・１１・２月を予定）する。	教務部が立案し学校全体で取り組む。	B	参観者の減少への対策として案内先を拡充した。特色ある授業や行事等を実施して、参観者の減少に歯止めをかけたい。
		授業評価アンケートの作成と実施	今年度は２、３学期での実施に向けて作成する。	教務部が立案し学校全体で取り組む。	B	アンケート直前に授業担当者の変更がある等、アンケート結果の有用性に疑問が残るものとなった。結果は現在集計中である。
	個に応じた学習指導	自学時間調査の実施	１・２学期期末考査前に全学年で実施する。	教務部が立案し学校全体で取り組む。	A	名称を「宅習」から「自学」に変更して調査項目が明確になり、調査データの有用性が高まった。
		生徒理解の推進	クラス裁量ＬＨＲや、個人面談時間の確保。生徒情報の共有。 家庭訪問を実施する。	教務部が各部と連携して立案し、学年主任を中心に、全クラスで取り組む。	B	ＬＨＲ等の時間の確保は、特別時間割の作成により最大限確保したが、職員間の情報共有は不十分である。各部会・学年会・教科会等での情報伝達が重要。
		習熟度別授業の実施	１・２年の数学と英語、３年の数学で実施する。	教務部を中心に関係教科で取り組む。	A	現状で最大限実施している。生徒の実態に応じた授業の展開ができた。

中高一貫教育の推進	６年間を通じた中高一貫教育指導の充実	中高一貫教育を生かしたカリキュラムの構築	中高６年間を見通した特色ある教育活動を可能とするカリキュラムを編成する。	各教科を中心に、中高一貫教育校としての特色ある教育活動を充実させる。	C	中高一貫教育校として、各教科や総合的な学習の時間において中高連携を図り、特色ある教育活動を行っている。 昨年度、附属中学校第１期生が高校を卒業したことを受け、本年度は、総合的な学習の時間について、さらなる中高連携の可能性について検討を行った。 今後も、今までの教育活動を振り返り、改善すべき所は改善して６年間を見通した特色ある活動とは何か、検討を進めていく必要がある。
キャリア教育の推進（進路指導）	進路希望に応じた学力の向上	コースの特性を生かした教育活動の展開	文系コース・理系コースで、それぞれの系統の特性を生かした教育活動を行い、生徒の進学希望を実現させる。	教務部を中心に、学年・教科と連携して取り組む。	B	２・３年生は文系４クラス、理系３クラス。習熟度展開を実施している教科もあり、生徒の学力層に応じた指導・支援を今後とも行っていきたい。文理選択に係る手立てについては検討する必要がある。
		校内実力考査の実施	１年と２年は学期初めに、３年は、９月に１回実施する。	教務部及び進路指導部が中心となり各学年で実施する。	B	１・２年については、長期休暇における学習内容の定着の確認ができた。３年の実施については、授業時間の確保、実施結果の利用方法等の観点から再検討したい。
	進路意識の高揚	進路講演会はじめ各学年に応じた取組の充実	年２回「キャリア教育講演会」を実施する。	進路指導部が企画し、学校全体で取り組む。	A	今年度は２回実施。特撮美術監督三池敏夫氏、熊本赤十字病院大塚尚実氏による講演は、生徒の主体的な進路選択・決定に係る能力及び勤労観・職業観の育成に繋がっているものと考える。保護者の参加については検討事項。
			キャリア教育「インターンシップ」を実施する。	進路指導部で企画し、２年を対象に実施する。	A	夏休みの一日看護体験、春休みの医療系インターンシップに加え、今年度は農業系インターンシップを拡充。
			若駒キャリア塾（職業別講話）を実施する。	同窓会・育友会等との連携・協力のもと、進路指導部が企画し、中学３年生と高校１年生を対象に実施する。	A	同窓会・育友会等の協力のもと、９月９日に実施。１３名の方の講話を聞き、生徒各自の職業観の深化に繋がったと思われる。次年度は、文理選択の時期前に実施する予定で計画を進めたい。
			一日若駒大学（出張講義）を実施する。	進路指導部が企画し、１・２年を対象に実施す	A	１０月１９日に九州内国公私立大の先生を招き、１８講座

				る。		を実施。生徒はいずれかの講座を聴講したのち、講座テーマに基づいたディスカッションを行い、講座内容について理解を深めた。生徒は、大学での学びについて知り、進路目標達成への意欲が高まった。
			ようこそ先輩（大学の学部・学科説明会）を実施する。	進路指導部が企画し、6月に２年を対象、９月に１・２年を対象に実施する。	A	１２月１６日に実施。大学３、４年生の文系５名、理系５名の本校卒業生に大学での研究内容や就職活動の状況等について講演してもらった。生徒は、自らの進路目標達成への意欲が高まった。
			キャリア教育「私の仕事作文コンクール」へ応募する。	進路指導部で企画し、1年を対象に実施する。	A	１年生全員が応募し、「好きな仕事で、夢をかなえる！」というテーマで「専門学校新聞社賞」を受賞した生徒がいた。
		進路指導力の充実	各種説明会、進路研究会へ参加する。	進路指導部が立案し、各学年及び進路指導部職員を派遣する。	A	本校生徒が志望・受験する大学等の進学説明会や予備校で実施される大学入試研究会に参加し、進路指導力をつけるよい研修の場となった。
			先進校視察を実施する。	進路指導部と附属中学校が連携して立案実施する。	D	本年度は実施なし。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	挨拶及びマナー指導	年間を通じて、教育活動の全ての場面において取り組む。	登校指導・下校指導を生徒指導部で企画し、全職員で取り組む。 生徒会各種委員会による挨拶運動を実施する。	B	校内外問わず、挨拶の状況は良くなってきている。中高合同での挨拶運動も実施することができた。マナー面において、集会時の集合や聞く姿勢、遅刻等について改善すべき点もある。
		整容指導の実施	学年集会等で整容指導を年８回実施する。 日常的な指導を実施する。	検査は生徒指導部が立案し各学年と連携して実施する。 全職員で指導する。	B	職員の日頃の指導により、不合格者は減少している。さらに、意識を高め、整容検査が廃止できるようさらに指導を徹底する。
		交通安全意識の高揚	登校指導年６回、下校指導週２回、新規単車通学生への免許取得指導を実施する。 単車通学生の実技講習会を年１回、保護者会を年２回実施する。自転車２重ロック点検を毎月	登校指導は生徒指導部で立案し、全職員で実施する。下校指導は生徒指導部が実施する。 単車通学生への指導については、地元の企業や自動車学校、警察署と連携した活動を行う。	B	単車通学生の違反・事故は減少しており、意識の高揚が見られる。しかし、自転車による事故、公共交通機関や歩行中におけるマナーについて外部の方より指導を受けることもあった。幸い、命に関わるような大きな事故はないが、指導をより充実させ、違反・事故ゼロを目指したい。自転

			１回実施する。交通講話を実施する。			車の二重ロック指導などの細かな指導から事故防止につなげたい。
	生徒会・部活動等の活性化	生徒を全面に出す取組の推進	各種行事等での生徒の自主・自律を促す。	生徒が企画・立案したものを生徒会担当職員を中心に、全職員で支援していく。	A	生徒会役員、各種委員会等行うべき仕事や取組等は献身的に行ってくれた。しかし、現在の生徒たちの考えに基づいた新たな取組や今までよりプラスアルファされた取組が少なかった。生徒達がより自主的自発的に様々な活動を積極的に行えるよう促したい。
		文武両道の推進	下校時間を徹底させる。	各部活動顧問との連携及び下校指導を実施する。	B	下校時間は概ね守ることができている。活動時間の確保や活動場所の充実をより進めていきたい。部活動の活性化となる取組をさらに進める必要がある。
人権教育の推進	研修の充実と推進体制の機能強化	年間指導計画の作成と校内研修の実施	年度当初に年間計画を作成し、年間３回校内研修を実施。また校外研修へも積極的に参加する。	人権教育部が立案し、全職員で取り組む。人権教育推進委員会にてその都度総括を行い、次年度の計画策定の参考とする。	A	年間計画にもとづき、校内研修を実施することができた。また、多くの職員が校外研修にも参加した。
	指導方法等の工夫と改善	教科指導における取組の推進	人権教育の視点を持った教科指導を促す。	人権教育全体計画の中に各教科・科目の目標を設定し、それに従って教科指導を行う。	B	人権教育全体計画の中に各教科・各部の目標を設定し、教育活動全般において人権教育の視点に立った指導を図るよう努めた。
		ＨＲ活動における取組の推進	１年生５回、２年生４回、３年生３回実施する。	各学年の人権教育担当が立案し、学年全体で取り組む。	A	人権教育推進委員会を定期的に開催して、内容の検討、総括を行いながら、計画に従って取組を進めた。
	学習機会の充実と指導者の育成	外部講師による講演会の開催	人権教育講演会や職員研修を実施する。	対象学年の状況に応じた内容、本校教職員に必要な内容を吟味して人権教育部が立案し実施する。実施後も総括等を行い、更に理解の進化を図る。	A	特別支援教育、同和教育等のテーマごとに外部講師をお招きして、職員向けの講演会を開いた。また、高校１年生を対象に「スマホ・ネットリスク」に関する講演会を実施する予定。
		家庭への啓発活動の推進	学年保護者会等における講話と、ＨＰや育友会だよりを利用した啓発活動を実施する。	入学式や育友会総会等で学校の取組を周知し、啓発を行う。人権教育部やスクールカウンセラーからの「たより」を発行し、学校での取組をＨＰで紹介する。	C	入学式で人権教育部の取組について話をした。また、学校ＨＰを利用して人権教育ＬＨＲの内容を紹介し、「人権教育部からのお知らせ」を複数回配付して、「家庭でのいじめチェック」、相談窓口の紹介等を行った。しかしながら、保護者アンケートでは、取組が「わからない」という回答が増加した。保護者にしっかりと伝わるような手だてにつ

						いて検討する必要がある。
	「命を大切にする心を育む」指導	自他の命を大切にしようとする姿勢の育成	関連するテーマの授業を設定し、「命を大切にする」視点をもって日常的な指導を行う。	人権教育ＬＨＲ計画の中の「いじめ」や「拉致問題」をテーマにした授業等を軸に「命を大切にする」ことを訴える。また、その視点をもって日常的な指導に当たるよう職員に働きかける。	C	「命を大切にする心を育む」テーマに関する人権教育ＬＨＲの実施や、「命」に関連する授業を関係教科で行った。日常的にその視点を持った指導を行うために必要な手だてについて考え続ける必要がある。
いじめの防止等	いじめの未然防止と早期発見	生徒の意識高揚	６月の「心のきずなを深める月間」をはじめ、年間を通して啓発活動を実施する。生徒会からもいじめ根絶宣言をする。	人権教育部が立案し、生徒指導部、いじめ問題対策委員会、生徒支援委員会をはじめ学校全体で取り組む。	C	心のきずなを深める月間では標語を作成し、書道部に墨書を依頼して文化祭で展示し、後日校内各所で掲示した。 いじめ問題に関するＬＨＲも実施したが、いじめの根絶には至っていない。
		職員の意識高揚	「いじめ防止基本方針」等の理解を深める研修を実施する。		B	最初の職員研修でいじめ防止基本方針等について職員に周知した。いじめを防止し、早期発見する意識向上をくり返し伝えた。
		生徒理解の推進	相談体制を整備する。 学期に１回の心のアンケートの実施し、また、職員研修等を通して生徒に関する情報を共有し、理解を深める。		C	「人権教育部からのお知らせ」を通して、各種電話相談窓口や、スクールカウンセラーの紹介を行った。職員全体の生徒情報交換会を年に２回実施し、情報共有に努めて指導に活かした。しかし、学校評価アンケートで「悩みに親身になって応じている」と答えた生徒の増加にはつながっていない。
言語環境の整備	読書活動の推進	蔵書の充実と図書館内の整備	選書にあたり、先生方の希望を大いに取り入れる。利用しやすい図書館づくりに努める。	先生方に図書購入希望調査を提出してもらい、意見、アイディアをいただく。興味をひく特設コーナーを設置する。	A	職員のリクエストや意見をもとに、随時、社会の動向とリンクした、生徒の興味をひく特設コーナーを設置することができた。
		朝読書の実施	学期毎に２週間程度、全職員・全生徒で１５分間実施する。	図書部が立案し学校全体で取り組む。学年主導の朝読書と連携を図る。	B	２学期は、時間を５分短縮して１０分間にすることにより、連続して８日間実施することができた。また、開始時間を８時１０分から８時１５分にしたことにより、朝読書の期間も全職員が職員朝礼に参加きるようになった。 このように、１学期の反省を２学期に反映させながら、前向きに取り組むことができている。
		図書だよりなどの発行	月１回以上発行する。	図書部等が立案し実施する。	A	「新刊案内」、生徒による「リブダイアリー」、「考人」と

						順調に発行できた。
		図書館終礼の実施	１・２年各クラスで年間１回以上実施する。	図書部等が立案し実施する。	A	クラス毎に１年生１回、２年生２回、実施した。貸出数の伸びに貢献した。
	書く力の育成	小論文指導の推進	各学年とも総合的な学習の時間で「小論文作成」に取り組む。	各学年と進路指導部が連携企画し、学年全体で取り組む。関係職員の意見を聞き、最新の入試テーマに基づいた小論文資料（本）を充実させる。	B	各学年の担当者が小論文を作成する能力の育成という観点から総合的な学習の時間を計画・実践した。また、各学年ごとに講師を招聘し、講演会を実施し、現代社会の諸問題に対する理解を深めた。さらに、小論文入試対策指導を全職員で行っている。
保健環境指導	環境教育の推進	学校版環境ＩＳＯの取組	学期毎の環境週間（エコチェック・美化チェック）の取組を徹底する。	保健環境部が生徒指導部と連携・立案し、学校全体で取り組む。	B	学校全体で取り組むことができてきた。更に生徒と職員の意識向上を促す様な取組を考え、環境を良くする行動をとらせたい。
		温暖化防止への取組	省エネ・省資源に取り組む。	保健環境部が立案し、学校全体で実施する。	B	照明灯の自動化が進んだ。こまめな電源オフや裏紙利用は定着しつつある。更に節水やゴミ減量などを推進したい。
	健全な心身の育成	健康診断後の治療率向上	保健だより・治療勧告書で定期的に治療を促す。	保健環境部が企画し、各学年で取り組む。	A	生徒自身が生涯にわたり主体的に健康管理に取り組む資質を育みたい。また、保護者の協力が必要不可欠であるため、より理解を得られるようにしたい。
		外部講師による講演会の開催	性教育講演会（学年別に１回、年間計３回）を開催する。	保健環境部が立案し、全学年で実施する。	A	各学年単位の実施は発育発達の観点から見ても効果的である。更に充実させたい。
保護者・地域住民との連携（コミュニティ・スクールなど）	育友会との連携	育友会だより作成の支援	定期発行版及び臨時発行版のための資料を提供する。	総務部が中心となり、全職員で対応する。	A	広報委員長からの原稿・写真提供依頼に対して、該当職員・生徒からスムーズに原稿の提出が行われた。
		体育祭・若駒祭・小岱山一周大会での連携	学校との役割分担の明確化と連絡体制を整える。	総務部が中心となり、学校全体で取り組む。	A	各行事で、学校と育友会が互いの役割・仕事をきちんと行い、それぞれの行事を円滑に実施することができた。
		育友会総会や地区懇親会等での連携	育友会本部役員と協力して、資料・説明を工夫する。 地区委員と連携をとり、円滑に開催できるようにする。	総務部が中心となり、学校全体で取り組む。 総務部と育友会事務職員が協力し、学校全体で取り組む。	A	総会では育友会本部と協力して計画を立て、資料作成・会場の準備のサポートを行った。 地区懇親会は、地区委員と事務局本部との連携で、１９地区中１８地区で実施された。
	地域への貢献	地域への開放	公開授業、夏休みの学習支援活動を行う。（地域児童）	各担当を中心に全職員で取り組む。	A	公開授業を毎学期実施することができた。また、学校行事等も含めて地域の方や保護者の方に学校の様子や授業の様子を参観していただくことが

						できた。夏休みに地域の児童対象に「学びたいっ子応援隊」を実施した。参加した児童及び本校生徒ともに満足できる内容になった。
		ボランティア活動の推進	ボランティア委員会を中心に活動を実施する。学年毎の取組を推進する。	ボランティア委員を中心に、学年及び全体に呼びかけ活動する。	A	昨年度より実施回数は減っているが、参加人数は毎回３００人を超え、充実した活動になっている。より充実した活動になるよう、実施できる時間帯、活動場所等さらに工夫していきたい。
		地域への貢献を意識した活動の充実	故郷について知り、故郷について考え、故郷を愛することに繋がる取組の充実	総合的な学習の時間や授業・学校行事等において、故郷を大切にする活動を積極的に取り入れていく。	C	実施できる時間の確保が難しく、なかなか取り入れることができなかった。年間計画等に入れ、計画的に実施できるよう準備が必要である。なお、総合的な学習の時間での導入については検討中である。 ただし、ＬＨＲの時間に「故郷について考える」とのテーマでグループ討議を実施したクラスや、「自分の志望学部で学んで故郷にどう貢献するか」を夏休みの課題にしたクラスなど、クラス独自で取り組んだところもある。 また、玉名青年会議所主催「たまなの高校生による未来討論会」に３年代表生徒が参加する等、地域の取組への積極な参加を促したり、地域の農業経営者の協力を得たインターンシップを実施し、地域産業の現状とこれからについて考える機会を設けた。 このように、本年度はできるところから取り組んだ状況であった。
	地域との連携	防災型コミュニティスクールの新設	防災型コミュニティ・スクールとして活動内容の検討を行う。	学校運営協議会で検討し、防災主任を中心に、総務部で災害時の連携・対応マニュアルを作成する。	A	学校運営協議会（２月までに４回実施）の中で、防災主任を中心に作成した災害時マニュアルを検討していただいた。さらに、本年度中に区長会での説明を行い、次年度は、地域住民にマニュアルを広めていく予定である。

４ 学校関係者評価

学校評議員会及び学校関係者評価委員会（平成３０年２月１３日実施）での御意見。

（１）評価いただいた点

①「玉名高校に入学してよかった（させてよかった）」と思う生徒・保護者の割合が高いのはすばらしいこと。特に、保護者の割合が高いのは、日頃の本校の教育活動が支持されている証と考える。

②玉高といえば「進学」「勉強」のイメージが強いが、キャリア教育（大学体験・講演）など生徒が自分の進路に向けて何をどう頑張って取り組んでいけばいいのか意識させる取組も行われており、それが、生徒の学習へのモチベーションになっていると思う。

③学校行事も多く企画され、それぞれの目的を達成するために時間も使われているようだ。継続してほしい。

④細かな分析が行われており、先生方の日頃の努力をありがたく思う。

⑤学校評価アンケートや自己評価表について、新たな項目を加えながら、学校の姿・教育の姿がより可視化できていた。注目点について、より充実した取組を期待している。

⑥先生方が非常に頑張っておられる姿が目に浮かぶ。頑張りすぎて疲れてしまっては子ども達にもよい結果が訪れるとは思えないので、くたびれない程度にしっかりと頑張ってほしい。

（２）改善に向けた要望等

①地域や保護者に本校の取組に係る情報発信の工夫が必要である。（今回最も多い御意見）

・保護者アンケートに「分からない」が占める割合が高いのが気にかかる。情報発信の必要性を感じる。（質問を分かりやすくする工夫も必要ではないか。）

・教育相談やいじめの防止対策のアンケート結果で、生徒、保護者、教員の意識に差がある。先生方は十分実践されていると思うが、浸透しきれていないのが残念である。

②玉名高校は魅力的な学校だということを、もっとアピールしてもいいのではないか。すばらしい学校ということを地域の人にも知ってほしい。

③学校評価の中で、「故郷について知り、故郷について考え、故郷を愛することに繋がる取組の充実」が「C」評価となっているが、例えば、地元の名菓を利用した取組などは、何か考えられないか。地域と玉名高校・附属中学校が一体となって頑張ってほしい。

④文武両道校として地域の期待は大きい。これからも努力を惜しまない生徒達であってほしい。

⑤学校の魅力を保護者との連携のもと発信していきたい。県下で唯一、中学校、高校全日制、高校定時制がある点が魅力だと考えている。

⑥「個別の指導」に関しては、少々さびしい評価だと思った。

５ 総合評価

学校評価における評価項目のうち、「よくできている」とするＡ項目は過半数であり、昨年度に比べわずかに上昇した。しかしながら、「大体できている」Ｂ項目が下降し、「ややできていない」Ｃ項目が上昇しており、特に、Ｃ評価については、新たな評価項目に多く見られた。

このことから、学校の教育目標については、全体的にはおおむね達成できているものの、目標達成に向けた新たな取組・改善については十分とはいえず、次年度への課題と捉えている。

なお、今年度の新たな評価項目のうち、「１・２年生における図書館終礼の実施」と「防災型コミュニティ・スクール」については、Ａ評価とした。前者は、図書館の図書の貸出冊数の増加に貢献していること、後者は、本年度４回開催した学校運営協議会において、地域と一体となった災害時の連携体制の構築を図るための見通しができたことが高く評価できると考えた。

また、昨年度より評価が上がった項目として、インターンシップや職業別講話の実施などのキャリア教育の充実をあげることができる。特に、インターンシップについては、今年度、初めて農業系インターンシップを実施し、生徒にも大変好評であった。

したがって、従来の取組を継承しつつ、新しい事柄にも積極的に取り組んでいくことが、本校の教育目標の達成に必要と考える。

６ 次年度への課題・改善方策
学校評価アンケート、学校評議員会及び学校関係者評価委員会の御意見等から、以下の３点を次年度への課題・改善方策と考える。 （１）学校の取組について、保護者や地域への情報発信を工夫し、充実させる。 学校の取組が保護者に十分に伝わっていないことが、はっきりと学校評価アンケートに示されている。どの職員も記事が容易に載せられるようホームページの改良に努めるとともに、有効な情報発信の在り方について検討していく。 また、玉名高校が魅力的な学校であることを地域に発信する必要性も指摘されているので、生徒の活躍の様子などをどのように発信していくか、どのような発信の仕方があるか検討する。 （２）学校改革の推進（生徒と向き合う時間の確保と授業改善への取組の充実） 本年度から、毎月１回衛生委員会を実施し、職員の時間外勤務の状況等の情報共有を図ることはできたが、時間外勤務時間の縮減に向けた有効な改善策を打ち出すまでには至らなかった。 次年度は、全職員が時間外勤務時間の縮減を意識し、業務改善を図ることができるよう、衛生委員会と運営委員会が連携し、有効な改善策を提示できるようにしたい。 一方、授業改善への取組については、教務部を中心に公開授業週間の充実を図っているが、この取組が、「次期学習指導要領を見据えた授業改善」につながるようさらなる改善を図りたい。 （３）玉名高校・附属中学校の魅力発信 上記（１）と重複するところもあるが、併設型中高一貫教育校として特色ある教育活動を充実させるとともに、地域に愛される学校として「故郷について知り、故郷について考え、故郷を愛することに繋がる取組の充実」を図る。 特に、中高一貫教育指導の充実については、総合的な学習の時間をはじめ、６年間を通した指導にストーリー性を持たせるために数値化し、見える化を進める。さらに、玉高ＳＩの実現に向けて、各学年、各部署で取り組んでいることに繋がりを持たせながら、中高一貫教育指導の充実を進めていく。